

REPORT & INFORMATION

報告とお知らせ

お問い合わせもうしこみは

ユニセフ子どもネット事務局

(日本ユニセフ協会 広報室内)

住所: 〒108-8607
東京都港区高輪4-6-12

でんわ: 03-5789-2016

ファックス: 03-5789-2036

電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

お知らせ Information

署名活動

「子どもの人身売買」の根絶をうったえる 署名キャンペーンがはじまりました

現在、世界では、毎年120万人の子どものたちが人身売買の犠牲となっています。日本にも、フィリピン、タイ、コロンビアなどの国々から人身売買の犠牲となった子どもたちが送られてきているといわれています。

しかし、日本では、「子どもの人身売買」を取りしめるための法律がまだありません。そのために、日本政府が昨年5月10日に署名した「子どもの売買、子ども売買春および子どもポルノグラフィに関する『子どもの権利条約』の選択議定書」の批准(国が条約の内容に最終的に同意すること)ができないままになっています。

日本ユニセフ協会は、日本がこの選択議定書を早く批准し、必要な法律の整備を急いでおこなうように国会に求めていきたいと考えています。今回の署名活動もそのためのものです。

署名の期限は6月末までです。署名用紙がほしい人は、ユニセフ子どもネット事務局までご連絡ください。また、ホームページでもダウンロードできます。(http://www.unicef.or.jp)



セミナー

日本ユニセフ協会大使 アグネス・チャンさん 大使就任5周年記念連続セミナー

1998年4月に日本ユニセフ協会大使に就任したアグネス・チャンさんが、就任から5周年にあたる今年、これまで訪問したタイ、スーダン、ティモール、フィリピン、カンボジアでの体験や、日本国内で参加したユニセフ支援活動の思い出、日本の子どもたちに期待することなどを話す6日間連続のセミナーがひらかれます。関心のある人や参加したい人は、子どもネット事務局までご連絡ください。1日だけの参加でも大丈夫です。

日時
2003年 4月21日(月) - 25日(金) 午後6時30分 - 8時30分
4月26日(土) 午後2時 - 4時
会場
ユニセフハウス 1階ホール
入場料
無料

各日のテーマとゲスト
21日 私とボランティア: 香港から日本、カナダへ ゲスト: 亀淵昭信 ((株)エフオン放送代表取締役社長)
22日 アフリカの思い出(エチオピア、スーダン) ゲスト: アリス・ウォーカー(作家)(同時通訳付き)
23日 アジアの子どもたち(仮題) ゲスト: 新井満(作家)
24日 日本でのユニセフ活動と子どもの商業的性的搾取 ゲスト: 東郷良尚 ((財)日本ユニセフ協会専務理事)
25日 子どもにふさわしい世界を作るためには ゲスト: 安倍晋三(衆議院議員)
26日 日本の子どもたちに期待すること ゲスト: 毛利衛(日本科学未来館館長)(予定)

更新

2003年度のユニセフ子どもネット更新をおねがいします

今回のニュースレターには、2003年度のユニセフ子どもネットの更新のご案内が同封されています。更新作業がスムーズにいくように、4月22日(火)までに更新の手つづきをしてください。2003年度もさまざまな活動をみなさんと一緒におこなっていきたくと思います。どうぞよろしくお願ひします。

新しい資料のご紹介

『2003年世界子供白書』(日本語版)

2~3ページでもご紹介している通り、今年度の白書のテーマは「子ども参加」です。各国で活動をしている子どもたちの事例などが紹介されています。ご希望のネットワークには、1部まで無料で差しあげます。



『世界子供白書2003』7分ビデオ

キューバの幼児教育プログラムやタイの子ども参加を導入した学校教育、アルバニアで10代の子どもたちが作ったテレビ番組など、子ども参加をうながすためのプログラムの事例が報告されています。



©UNICEF/HQ97-0245/Horner

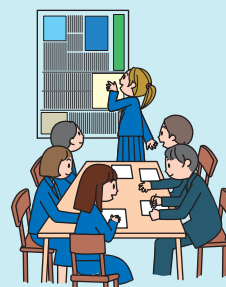
『2003年世界子供白書』とビデオの貸し出しの申し込みは、ユニセフ子どもネット事務局まで。

報告 Report

アジアの子どもの商業的性的搾取について学校で発表しました

昨年11月11日と18日に学校の授業の一環として、子どもの商業的性的搾取に関する発表をおこなった。タイ、フィリピン、カンボジア、ネパール各国の状況、子どもが東南アジアでどのように人身売買されているか、子どもたちのこの問題に対するとりくみなどについて調べたことを、日本との関連も含めて発表した。合計で約1時間、手作りのプリントとユニセフから貸していただいたビデオを使っただけの発表に、クラスメイトの反応はさまざまだったが、ビデオに登場する子どもたちの発言や保護者が子どもを売っていることなどが衝撃的であった。発表前には、この問題について知らないというクラスメイトがほとんどで、知っていると答えた人は40人中5人だった。

被害者ではない私が発表することに戸惑いもあった。しかし、発表の1カ月前に、学校でタイで買春被害者の女性を助ける組織の方のお話を聞くチャンスがあり、私達にできることの一つとして“CREATE AWARENESS(意識を生み出すこと)”ということが挙げられていた。私の発表に興味を持ってきてくれたクラスメイトもいて、私はこの発表で、“CREATE AWARENESS”の機会を少しでも生かすことができ良かったと思う。大鳥 由香子(17歳)



ユニセフ子どもネット@関西

ネットワークがハンド・イン・ハンド募金活動をおこないました

学習会の時の話し合いで、ハンド・イン・ハンドに参加しようと決めた関西地域のネットワークが、1月4日(土)午前10時~午後3時まで、神戸市内で街頭募金活動をおこないました。中心となったネットワークたちが、友達などにも呼びかけて、合計17人の中学・高校生が参加し、124,555円もの募金が集まったそうです。

この冬一番と言われた寒さの中、高校生は各学校の制服で参加しました。主催者6名(うちネットワーク4名)以外にどれくらいの人々が参加してくれるのか、事前説明会に参加していない初対面の人々がなじめるか、初めは不安もありましたが、みんなで仲良く協力してできたと思います。岩島 史(17歳)

ユニセフ子どもネットニュースNO.3を読んで

ネットワークからの感想

学校に行きたくても行けなかったりして、かわいそうでした。私は学校に行きたくないときがあるけれど、アフリカなどの人々には、それはぜいたくだと思うような気がします。お金がなくて、生活の苦しい人びとの支援がもっと必要なのを知りました。遠山 優香 13歳

4ページに「世界の5人に1人は1日120円以下の生活」と書いてあり、すごく驚きました。それと、5ページの右にあるヨハネスブルクでの子ども達のスピーチで、政府と世界の人びとに対する要求がありましたが、本当に共感します。当たり前のようなことを守るのがすごくむずかしい。だから私たちネットワークや、そういう問題に理解のある人たちが先頭となり、良い社会、良い世界をつくっていかねばならないと思います。砂田 明日香 15歳

以前からアジアで人身売買がひどい状態になっていることは、ユニセフのホームページで知っていました。“小さい子どもならエイズにはかからないという考えを持ったおとなが、子どもの性を買っててもあそんでいる”というレポートをみてぞっとしました。また、最近では外国からその子どもの性を買っててもあそぶという事態もあるそうで、日本のおとなも多いそうです。このことは、日本人としてまた地球市民として絶対に許してはいけません。石田 有佳 16歳